

米高校生31人

# 原爆資料館を見学

## 「事実知り、ぞっとした」

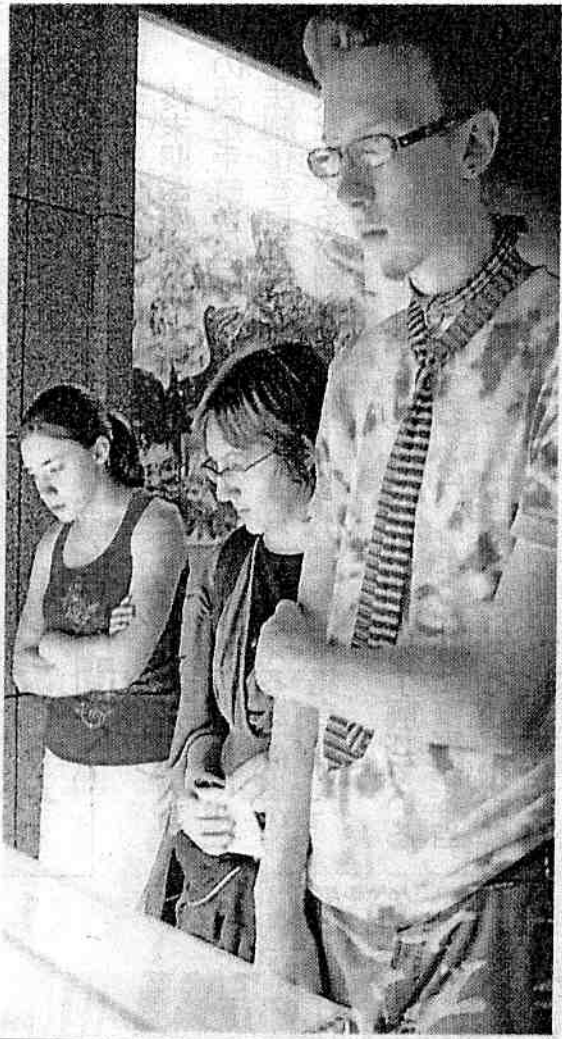
米国コロラド州ベアクリーク高の生徒ら三十一人が十三日、長崎市平野町の長崎原爆資料館を見学し、原爆被害と平和について学んだ。

異文化理解の大切さと平和の尊さを学ぼうと、本県を毎年訪問してお

から佐世保市にホームステイしており、十三日に長崎市入りした。

流を手掛ける旅行会社「ペーシインターナショナルジャパン」(福岡県)で見学に先立ち、学生交

顧問で、被爆者の前田稔



展示物に見入る米国の高校生＝長崎原爆資料館

さん(モミ)が、長崎原爆の種類や投下された背景を講義。館内では、故永井隆博士のロザリオ(数珠状の首飾り)にじっと見入る姿が目立ち、被爆直後の長崎の写真的前では涙を流す生徒もいた。

ナターシャ・ニュートンさん(モとアリサ・ジヤレスさん(こは)は「とても衝撃的。世界平和がより活発になる手助けをしたい」。アラン・ブライロック君(五)は「事実を知り、ぞっとした。爆弾の力を悪用してはならない」と話した。

同校のスコット・ハーガス教諭は「再び悲劇が起らないよう、長崎で起きたことを理解することが大切」と述べた。

一行は今後、島原市や福岡市などを観光し、十九日、帰国する。